

留学先：Clemson University

氏名： 黒川晶平

【はじめに】

あけましておめでとうございます。自分の人生で初めて実家以外で、それも外国で新年を迎えました。今年は至る所で暖冬だと言われていますが、温暖なココレムソンでも1月に入りようやく冷え込みが厳しくなってきました。今回は12月の冬休み中の旅行の話と大学のフットボールの文化について書いていきたいと思います。

【アメリカでしかできない旅】



学期が終わり、冬休みに入ると必然的に学生は大学の寮から追い出される形になります。というのも、学内の施設は閉鎖され、学生たちは皆一斉に実家に帰るので、帰国できない交換留学生にとっては一人寂しく寮で生活するか、どこか旅行するかのどちらかに迫られるのです。私は、はじめの一週間は自由気ままな一人暮らしを満喫したのち、アメリカ横断の旅に出発しました。

もともと旅好きに加えて地理が大好きだった私は、長距離鉄道に乗って様々な景色を堪能し、さらに主要3都市を観光しながらアメリカ国内横断を目指す計画を立てました。旅のルートとしては、まずクレムソンから西海岸のサンフランシスコまで飛行機で飛び、観光したのち鉄道で五大湖に臨むシカゴへ、その後東海岸側のワシントンDCに行き、最後にクレムソンまで南下して戻ってくるものでした。80時間以上鉄道に揺られ、1週間かけて横断を終えたわけですが、予測不可能なことの連続でとても刺激的な旅となりました。荒れた天気、サンフランシスコ、JRと違い遅れることが当たり前の鉄道、初の寝台車、フレンドリーな人々、店が閑散としていたシカゴでのクリスマス、5年ぶりのDCと、思い出せばきりがありません。特に、車窓から見えた壮大かつ様々に変わりゆく景色は、完全に私の心をつかみ、移動中全く退屈することはありませんでした。この報告書内で写真をたくさん見せることができずとても残念です。

また、年末に友達に会いにニューヨークにも旅行に行きました。この旅行は渡米以前から考えていたもので、アメリカ各地で留学またはインターンしている同じ英語科の友達と再会できたことが本当に嬉しかったです。アメリカの毎年恒例行事にもなっている、タイ

ムズスクエアでの年越しイベントに参加し、一緒に歓喜した瞬間は、10 時間以上も外でトイレを我慢して待った体験とともに今後も忘れることのない思い出となりそうです。

いずれの旅行も時間的に余裕がありアメリカにいる今しかできない体験であり、留学中にしか楽しめないことを徹底的に満喫できた冬休みでした。

【熱狂するフットボールの文化】



以前の報告書でも少し述べたかもしれませんが、クレムソン大学はアメリカンフットボールの強豪校として有名です。キャンパス内には 8 万人収容の巨大スタジアムに加え豪華な練習施設もあり、そして“タイガース”をこよなく愛するサポーターたちがいます。こちらに来る前から、アメリカではフットボールが一番人気のあるスポーツであることは知っていましたが、その規模には驚かされました。誰もがチームカラーのオレンジのシャツを着て応援することはもちろんのこと、試合がない日でもあちらこちらからフットボール関連の議論がなされています。実際旅先でもよく耳にしました。学生スポーツとはいえ、プロの MLB も凌駕するほど世間にはカレッジフットボールの熱狂的なファンがいます。また大学の経営に関しても、フットボールは一種の莫大なビジネスとなっていますので、当然学校おろか町を挙げて熱くなるのです。このような点は、あまり日本では見られない大学の文化だと言えるでしょう。

僕も実際に合計 4 回スタジアムに足を運びチームの応援をしました。はじめはルールが全くわかりませんでした。細かい戦術や激しい攻防、そして何より点が入った時の荒れ狂う歓声が多量に魅力的に思えるようになり、今ではすっかり虜になってしまいました。しかも今学期のクレムソンは圧倒的な強さがあり、試合のたびに盛り上がっていきましました。そしてシーズン無敗のままついに全米選手権の決勝まで進みました。アリゾナで行われたアラバマ大学との試合は、最終クォーターまで接戦になる展開で、私もバーで大勢のサポーターとともにその熱い試合を観戦していました。結果は残念ながら負けてしまいましたが、全米 2 位は偉業とも言える成績であり、この大学を選んだことを心から誇りに思っています。間違いなく貴重な体験であり、とにかくカレッジフットボールに魅了されたひと時でした。

次回は春学期に履修している授業について報告していきたいと思います。それではまた。